
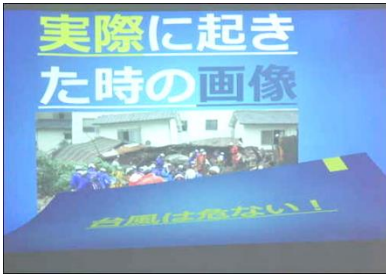


小学校プログラミング教育実施レポート

令和2年度から必修化された小学校プログラミング教育の実施の様子を紹介するものです。
未来の学びコンソーシアムにて実施内容の精査を行うものではありません。

学習活動名	理科 台風と天気の変化
学年	小学校第5学年
目標	<ul style="list-style-type: none">・コンピュータに意図した処理を行うよう指示する体験をさせる。・自然災害が起きる仕組みについて理解を深め、災害から身を守る方法を考え、発表する。
教材タイプ	アンプラグド
使用教材	パワーポイント
環境	一学級30名で30台の端末を使用（第5学年3学級、計89名実施）
都道府県	東京都
実施校	あきる野市立五日市小学校
学習活動の概要・児童の様子(プログラミングの活動を中心に記載ください。)	<p>あきる野市は、令和元年度の台風19号による被害を受け、本校も避難所が開設された。近年頻発する自然災害に対して、教科指導による対応が求められている。本校は土砂災害等のリスク対策で、第5学年の理科「台風と天気の変化」での取り組みを行った。</p>  <p>児童は台風と天気の変化について学習した後、学んだことを再構成し、身を守る方法を考えて発表する活動を行った。児童はプレゼンテーションソフトを使うにあたって何を発表するのかを考え、その内容やスライドの構成について考えた。その過程で紹介する内容を充実させるため、調べてまとめる活動を発展して行った。</p> <p>スライドを作成する際、はじめは紹介する内容を全て文字で打ち込もうとする児童もいたが、キーワードと図や写真を入れて簡潔にまとめるということを理解していった。また、伝えたいことを大切な順に見せていくために、説明に合わせてアニメーションを加えて表示することを工夫した。スライドショーをすると説明の順に合わないアニメーションに驚いて絶句したり、うまくいったときの満足そうな表情が見られたりした。</p> <p>そのような取り組みをとおして、児童は災害についてあらためて振り返ったり調べたりして理解を深め、身を守る方法を考えた。発表に至るプロセスを体験的に理解した。そして、災害の起きる仕組みと身を守る方法を見た人に伝えるため、どのようなスライドの順、アニメーションが必要であり、対応した指示をどのように組み合わせたら良いのか、組み合わせをどのように改善していけば、よりよいものに近付くのかを試行錯誤しながら考えた。</p> 
成果と課題	<ul style="list-style-type: none">・コンピュータに意図した処理を行うよう指示する能力が高まった。・理科の既習の内容について理解を深め、災害から身を守る方法を考えることができた。・今後はコンピュータを用いたプログラミング教育につなげていく。